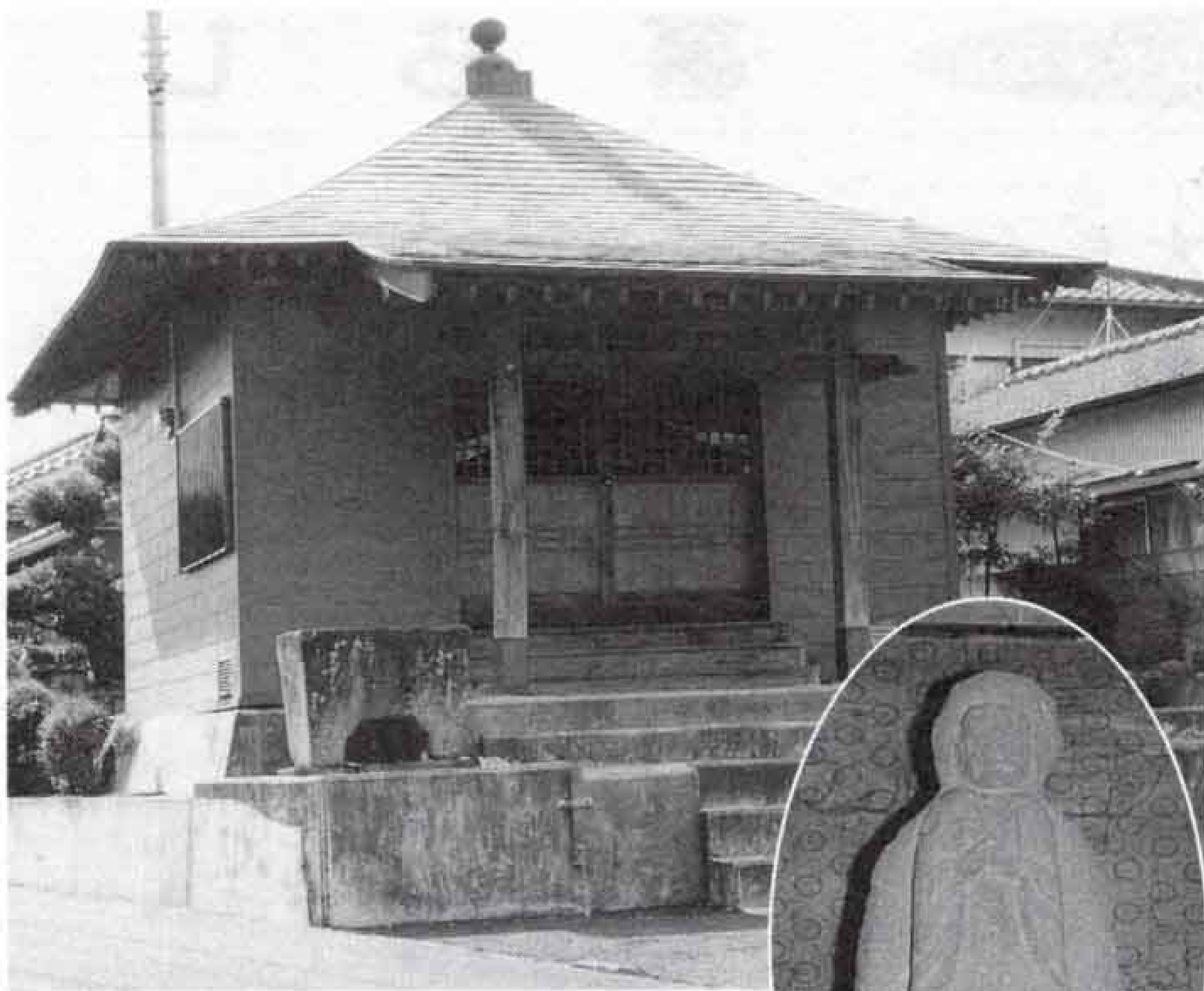


富士の民話 あれこれ

砂山の

お地蔵さん

元吉原地区鈴川町の坂の途中に小さなお堂があります。そのお堂の中に、高さ五十センチメートルほどの石のお地蔵さんがおさまっています。地域の人たちから「砂山のお地蔵さん」と呼ばれ親しまれています。今回は、この「砂山のお地蔵さん」についてご紹介します。



お堂と砂山のお地蔵さん



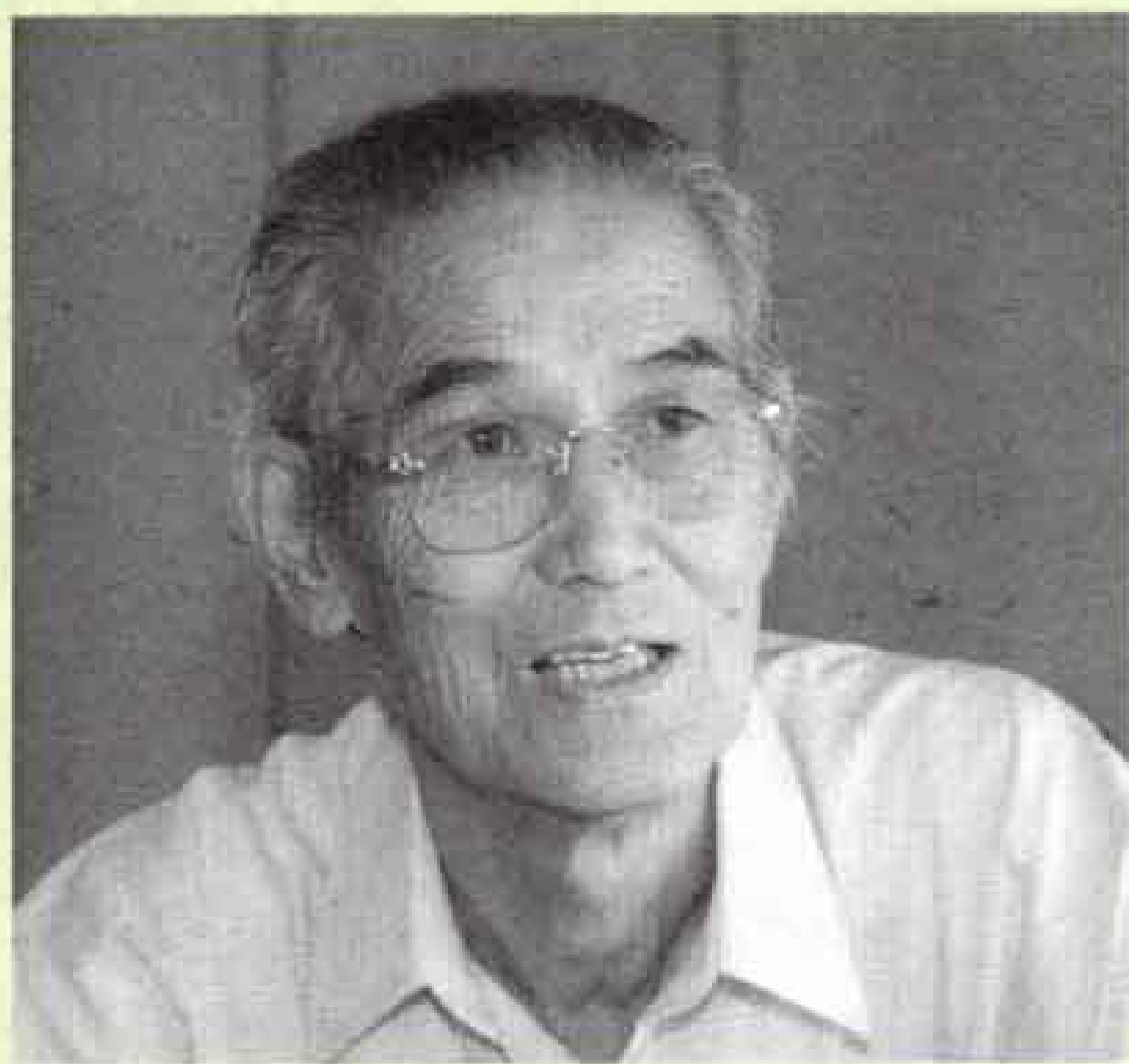
砂山のお地蔵さんは、今ではお堂の中におさまっていますが、昔は雨ざらしで、大きな松の木の根元にひとりぼっちで毎日道を通る人を眺めていました。あるやみの晩のことです。吉原湊へ着いた伊勢船の船頭が二人、元吉原の宿場まで鼻うたまじりで行こうとしましたが、道が暗くて困っていました。すると前の方から紺がすりを着た小僧がやってきて「こっち、こっち」と言うのでその後について行きました。ところが小僧の姿はいつの間にか消えて、二人はアシの生えているどぶの中をザブザブ歩いていました。手足が冷たいのでようやく気がついてどぶの中からはい出した二人は、「あの小僧め、地蔵が化けたに違いない。ちくしょうめ！」と悔しがりましたが後の祭りでした。



こんな人を化かす話も伝えられているお地蔵さんですが、いつのころからか、このお地蔵さんは人の願いをよく聞いてくれるお地蔵さんだといふので、お参りする人が多くなったということなのです。

砂山のお地蔵さんは、願い事を聞いてくれるお地蔵さんとして知られていて、「いいなり地蔵」とも呼ばれています。

私が小学校低学年のころまで行われていたお地蔵さんのお祭りは、「火渡り」の祭りとして有名でした。お堂の前の広場でまきをたき、富士宮市にある本門寺から来た山伏の修行者が、火を治めるよう祈禱してくれました。そして、火の上を村じゅうの人たちがはだしで渡って無病息災を願ったものです。その後戦争などでお祭りは途絶えてしまいましたが、地域の古いお祭りを子供たちに伝えていこうと、平成六年にお堂を修復したのを機に、地域手づくりのお祭りとして復活しました。いつかは火渡りも復活できたらいいなと思っています。



鈴川区管理委員会委員長
鈴木 良平さん (鈴川町)

こちら編集室

市の経理・会計関係の事務処理を効率的に進めるため、最近庁内LAN・財務会計システムが導入された。

先日このためのパソコンが各職場に配置され、システムの試験的操作が始まった。ワープロ専用機からパソコンに切りかえてまだ数

年。何とかパソコン操作になれてきたなと思うとすぐに新しいソフトや機器類が出てきて、また四苦八苦。

情報化の進展の早さについていくのが大変な日々。もう少し若さがあれば楽しくできたららうと、情報化の波を背に感じるこのごろ。

人口 238,429人 (前月比+167)
男 118,672人 (+58)
女 119,757人 (+109)
世帯 78,998世帯 (+99) 9月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

